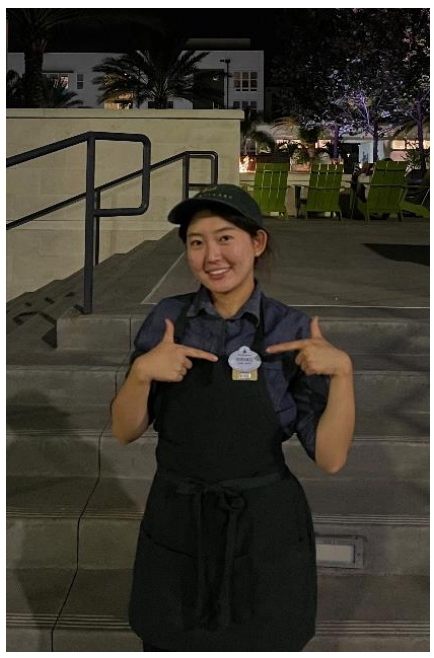
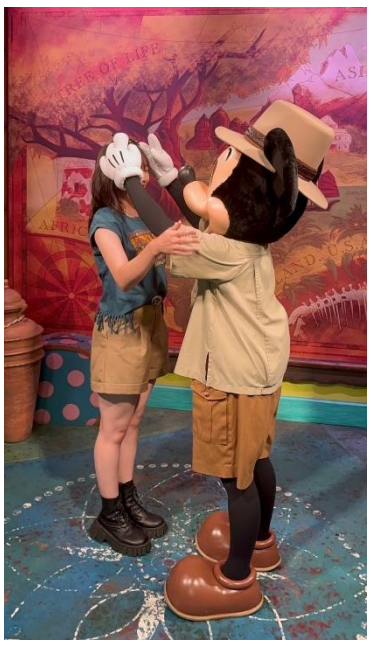
Think Globally! Challenge for your Career!

外国留学中間レポート



2023　FALL 発行

留学中のみんなから、中間レポートが届きました!



外国留学中間レポート 2023 FALL

目次

イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校（アメリカ） 2
経営学部　経営学科　2年 2

ディズニー・バレンシア国際カレッジプログラム（アメリカ） 3
文学部　英語英米文学科　3年 3
ディズニー・バレンシア国際カレッジプログラム（アメリカ） 4
文学部　英語英米文学科　3年 4
ディズニー・バレンシア国際カレッジプログラム（アメリカ） 5
マネジメント創造学部　マネジメント創造学科　3年 5

ビクトリア大学（カナダ） 6
経済学部　経済学科　3年 6
ビクトリア大学（カナダ） 7
文学部　英米文学科　2年 7
ビクトリア大学（カナダ） 8
文学部　英米文学科　2年 8
ビクトリア大学（カナダ） 9
マネジメント創造学部　マネジメント創造学科　3年 9

カールトン大学（カナダ） 10
文学部　社会学科　2年 10
カールトン大学（カナダ） 11
経済学部　経済学科　3年 11

リーズ大学（イギリス） 12
マネジメント創造学部　マネジメント創造学科　3年 12

東義大学（韓国） 13
経営学部　経営学科　3年 13
東義大学（韓国） 14
経済学部　経済学科　4年 14

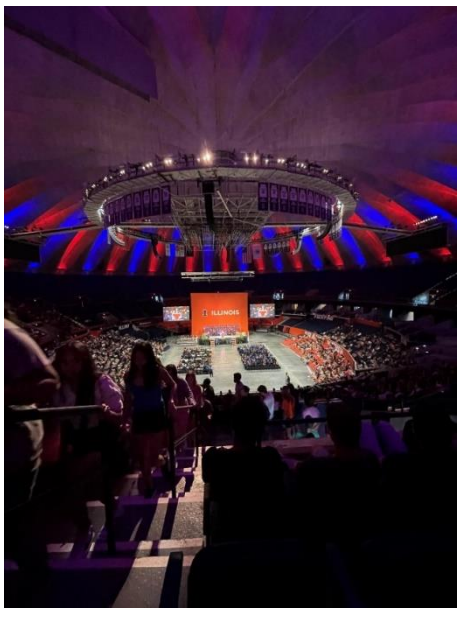
イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校（アメリカ）
経営学部　経営学科　2 年
【交換留学】留学期間：2023年8月～2024年5月

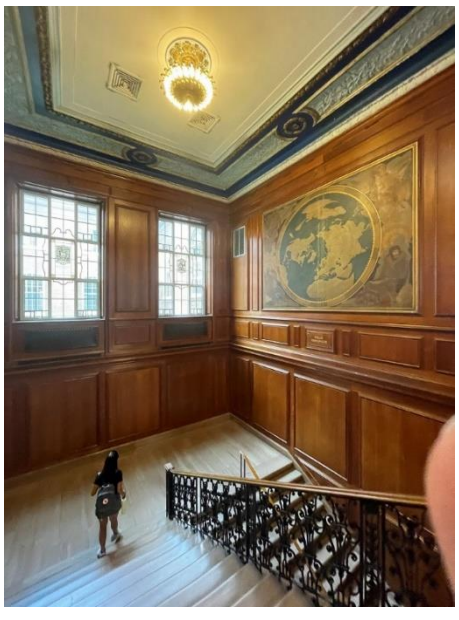
私が留学を目指したのは中学生の頃でした。初めて海外に行き、日本とは異なる新しい世界に触れることができ世界の広さを実感しました。大学に進学する際に留学を通じて自分の世界をより広げたいと強く思いました。そして大学入学後、私の夢でもあるアメリカへの留学のチャンスを掴むことができました。イリノイ大学への留学が決まってからは、緊張と期待の両方が日を追うごとに増していきました。それでも努力して手に入れたこのチャンスを最高の経験にするべく目標を掲げ、準備を進めました。

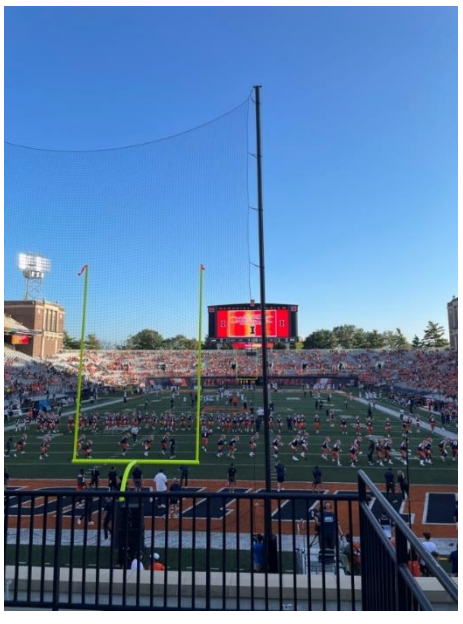
そしてついにアメリカへの１年間の留学の日がやってきました。日本での生活が名残惜しい気持ちもありましたが新たな挑戦に胸を躍らせ出発しました。出発してからの１ヶ月程は非常に刺激的で、毎日、新鮮な日々を過ごすことができました。現地に到着後、憧れたアメリカでの生活が現実となり、今まで抱いた不安や緊張は少しずつ解けていきました。また同時に、夢を叶えることができた喜びと今から始まる挑戦に向かって心が高揚しました。

アメリカの生活というのは日本との生活とは大きく違うものでした。日本と異なる点を探すよりも同じものを探す方が難しいと言えるほどでした。交換留学では現地の学生と同じ授業を受け単位を取得することを目指します。キャンパスは広大で、キャンパス内を移動するにはバスで 30 分ほどかかるので、研究施設やジム、寮などが充実しています。授業に関してはアメリカの大学は日本の大学に比べて講義自体は少ないように感じますが、講義のほかに少人数でのディスカッションの授業、予習・復習などの時間が多く設けられています。初めは授業に追いつくことに精一杯で目がまわるような生活でしたが、少しずつ自分の中でリズムを見つけ楽しむことができるようになりました。

最後にアメリカが世界で一番多様性に富んだ国の一つだと思います。私はそのような文化的で活気にあふれたこの国で留学を決意しました。そして私は留学生として彼らの多様性の一部となりました。ここでは個々の人が自身のアイデンティティを持ち、目標に向けて努力しています。私もこの留学が充実したものだったと言えるように、残りの留学生活を悔いのないように過ごしていきたいです。







ディズニー・バレンシア国際カレッジプログラム（アメリカ）
文学部　英語英米文学科　3年
【奨励留学】留学期間：2023年8月～2024年1月

留学が始まって約一か月が経過しました。現在私はフロリダ州のウォルト・ディズニー・ワールド・リゾートのマジックキングダムにあるColumbia Harbor Houseというレストランでインターンとして働いています。主な仕事内容はカウンターでの料理の提供、ダイニングルームの清掃、レジなどです。仕事内容としては日本でよく見るファストフード店と相違はないですが、やはりすべて英語となると、大変なことが多いです。最近は聞かれることは大抵決まっているとわかってきたので、聞かれた質問に答えることができるようになりましたが、少しイレギュラーな質問や聞き方をされると、聞きなおしたり、少し考えてしまうこともあります。カウンターでの仕事では暇な時間は本当に何もないですが、忙しい時間帯はクルクルと動き回らないといけないのでそれが大変です。ダイニングの清掃は一人で黙々と掃除をするので会話はあまりありません。ここでは文化の違いが顕著に現れているなぁといつも思います。アメリカは家でも靴を脱がない文化のせいか、床を気にする人が少ないと思います。床にジュースをこぼしてもそのままだったり、大きなチキンのかけらが落ちていたりします。最近はゲームのように感じてきてそれなりに楽しんでいます。8時間働く日の締め近くにこのポジションが回ってくると大変だなとは思います。そんな時に、掃除をしてくれてありがとう、いい環境でご飯を食べられたよと伝えてくれたご夫婦や感謝の気持ちを書いたメッセージとおもちゃを机に置いて帰ってくれたご家族に出会い、感謝を伝えるって本当に重要なことなのだなと、身に染みて感じました。1か月が経過してやっとレジを任されるようになりました。渡米してしばらくはUSドルの使い方も全く分からなかった私が、まさか一人でレジができるようになるとは思っていなかったので自分で自分に感動しています(笑)。

寮での生活は、アメリカ人の女の子3人と同じ部屋で一緒に暮らしています。3人ともディズニーに囲まれた環境で育ったこともありすぐに結束してしまい、その点ディズニーチャンネルも見ずに育った私は懐かしく思う番組もなく、共通の話題がない上に英語もおぼつかないのでまだ素を出せるほどの仲の良さではありませんが、みんな優しくて面白いのでこの3人がルームメイトでよかったと思っています。いつも暇な時間に遊びに行くときは誘ってくれます。仕事はあっても家事はすべて自分でしなければならないので、両親の存在の大きさはとても感じます。

また、週に5日働き、それ以外の2日の休みの日にクラスがあります。ここではビジネスとリーダーシップを学んでいます。ビジネスといってもそれぞれの会社の特徴はこういうものがある、という文章を読んだり、働くうえで様々な性格の人がおり、ある性格の人と接するときにはこうすればいい、など内容は専門的ではないですが、単語力がとにかく無いことを突き付けられます。クラスは日本のように受動的に受けるのではなく、先生と対話しているみたいに進んでいきます。ですから先生と同じクラスのコロンビア人学生の議論が、授業中に突然起こったりもします。それがとても新鮮で面白いです。

以上が1か月経過した時点での生活です。毎日が濃すぎるので既定の文章量を超えてしまって長くなりましたが、読んでくださった方、ありがとうございました。これからも仕事やルームメイトや友達から学べることは学べるだけ学び、今の環境を最大限に活用しようと思います。

ディズニー・バレンシア国際カレッジプログラム（アメリカ）
文学部　英語英米文学科　3 年
【奨励留学】留学期間：2023年8月～2024年1月

留学が始まってから早くも 1 ヶ月半が経とうとしています。最初に比べると生活に慣れてきて、少し余裕が出てきたように思います。約 14 時間のフライトを終え、空港のホテルに泊まった翌日朝 5 時に寮に向かいました。寮はとても大きくて綺麗で一つの街みたいです。ルームメイトは私の他に 3 人いて、全員アメリカの子たちです。ベッドルームが 2 つあり各部屋 2 つずつベッドがあります。最初は緊張してルームメイトと話せませんでしたが、最近は一緒にパークに出かけたり、車で買い物に連れて行ったりしてくれます。

ウォルト・ディズニー・ワールドのキャストとしての生活は「tradition」と呼ばれるイベントから始まりました。そこでは部屋にみんな集まってプレゼンを聞きました。また、ミッキーが登場して、私たちのネームタグをもらいました。次の日はマジックキングダムのアトラクション勤務だったので、パークの案内をしてもらったあと、衣装を受け取りました。現場での仕事はとても大変でした。アトラクションなので専門用語が多く、文章を読んで実践の繰り返しでした。ゲストと関わることはとても嬉しかったですが、トレーニング期間は覚えることがたくさんで毎日忙しかったです。無事にトレーニングが終わってからは、他のキャストメンバーの人たちと関わる機会が増えました。今はみんなと仲良くなり、仕事がない日は他の人たちとパークに行ったり近くに買い物に行ったりしています。

同僚の人たちはアメリカ人だけでなく、スペインやオーストラリア、カナダ、韓国から来ている人たちがいて、いろんな言語や文化を知れるのでとても楽しいです。フロリダはスペイン語を話す人がとても多いので、スペイン語も勉強すれば良かったと思いました。私は数字だけ知っているので、少し役に立ちました。アトラクションはいろんなポジションがあり、それによって仕事内容も変わるので、慣れるまで大変でした。シフトは大体夜が多く、締め作業をすることがほとんどです。今はハロウィン期間でパークが曜日によっては 12 時まで開いているので、夜 1 時までのシフトの日もあります。午前中は何もないので、買い物に行ったり寮のイベントに参加したりしています。

寮のイベントはパーティーやピザのイベント、キャラクターに会えるイベントもあります。買い物は送迎バスが寮から出ているので、食料品を買いに行けます。他にもキャスト限定でグッズを安く買える場所があったり、キャスト限定のイベントがあったりするので、それもとても楽しいです。授業は週２回しかありませんが、みんな仲良く楽しく受けています。先生も面白い人たちで、気軽にディスカッションしたり質問したりしています。将来仕事をする上で役に立つことばかりです。特にリーダーとして必要な能力やリーダーの在り方などを学べるのは今の仕事にも使えることばかりでありがたいです。もうすぐ次のポジションに移動するので、そこでも新しい友達をたくさん作ってゲストにたくさんの幸せを届けたいです。

ディズニー・バレンシア国際カレッジプログラム（アメリカ）
マネジメント創造学部　マネジメント創造学科　3 年
【奨励留学】留学期間：2023年8月～2024年1月

ディズニーカレッジプログラム参加者として、アメリカのフロリダ州にあるバレンシアカレッジに留学して、もうすぐ 2 ヶ月経ちます。ディズニー管轄の寮で他国の子と共同生活をしています。もう 10 月中旬になりますが、日中は日差しも強く暑いです。しかし、夜になると寒くなったりして、未だフロリダの気候に振り回されています。8 月 9 月は急なスコールも多く、フロリダの洗礼を受けていました。

こちらでの生活は、基本週 5 日ウォルト・ディズニー・ワールドで仕事をして、残りの２日はクラスがあり、忙しい日々を送っています。ウォルト・ディズニー・ワールドは４つのパークからなっていて、そのうちの Disney Hollywood Studio、ABC Commissary というクイックサービスのレストランで働いています。到着してから 1 週間後からトレーニングが始まり、早速仕事漬けの日々が始まりました。当たり前のことですがトレイナーから同僚まで、英語が話せる前提で接してきました。その時、私はここに英語を話せるようになりにきたのではなく、働きにきているのだと強く再認識しました。仕事内容、キャストとしてのパークに関する知識などを全て英語で説明され、ついていくのに必死の毎日でした。Assessment に受かり正式なキャストになった後も、不安は多かったですが、分からなかったら聞くという基本的なことを心がけていました。職場では、Front of House という接客、片付けやエントランスでの案内などの仕事を主にしています。職種上、同僚と協力して行うことが多いです。最初はうまく馴染めなく、心細かったですが、次第に顔見知りが増えたことにより声をかけてくれたり、話をする子が増えてきたので、職場の中に自分の居場所を実感できて嬉しいです。毎日いろんなゲストや同僚と関わるなかで、世界の広さを身にしみて感じています。思っているよりも英語が話せない人も多くいます。ここへ来るまでは英語が話せることが一番大事だと思っていましたが、英語だけがコミュニケーションのツールではないと気付かされました。2 週間後には、次のロールのアトラクションに変わります。やっと慣れたこの環境からまた一変して新たな日々が始まることに対して、不安と楽しみで心がいっぱいです。

仕事がない週 2 日には Business Management と Leadership の授業が 1 日ずつあります。双方、ディズニーで働くにあたってすぐ使える知識や学びが多く、とても身になります。1 クラス 3 時間と一見長く感じますが、参加型の授業なのであっという間に終わります。

このような同じ生活スタイルを毎週繰り返しています。一日中何もないオフという日が基本ないので、仕事やクラス前後の時間をうまく使い、友達と遊んだり、食糧の買い物に行ったりします。何も考えずダラダラしたいと思う時もありますが、日々楽しみの予定を作ってそのために頑張ろうという気持ちで過ごしています。

今、Walt Disney World という世界中の人に幸せを与えるこの場所で働けていることに誇りを持っています。何においてもディズニーのスケールの大きさに圧倒される日々です。それに加えて、他の国の人たちと寮生活を送るという経験は、新しい刺激的なことでいっぱいです。毎日毎日が濃くて、あっという間に過ぎている感覚があります。この貴重な経験の中で、自分がどれだけ成長できるか、広い視点を持てるようになれるかが楽しみです。もちろん、自分の中で到達したい英語のレベルもあります。残り 3 ヶ月、これまで以上に時間の流れが早く感じるとは思いますが、無駄にせず一つ一つの瞬間を自分の成長へと繋げたいです。大変なことがあっても自分は母国とは違う国で、母国語とは違う言語を用いて仕事をしているという事実を自信に繋げて、自分を高めていこうと努力していきたいです。

ビクトリア大学（カナダ）
経済学部　経済学科　3 年
【語学プラス交換留学】留学期間：2023年4月～2023年12月

幼いころからのいつか留学をしたいという思いから、9 カ月間のカナダ・ビクトリア大学への留学を決意しました。安全性や多民族国家であるカナダで異文化に触れることを目的とし、カナダ・ビクトリアを選択しました。語学プラス交換留学のプログラムにおいて既に 6 カ月が経ちましたが、多くの出会いや経験をし、留学に行くことを決意して良かったと感じています。

前半の 4 月から 8 月までは語学学校において語学を中心に学び、ホームステイを通して現地に慣れることが出来ました。語学学校では、様々な国の学生と関わることができました。自身の語学力が低く表現力が限られる中でも、多くの素敵な友人に出会えたと思います。ホームステイ先でも温かく受け入れて下さり、ホストマザーとは様々な話をし、現地の方の文化や習慣について学ぶことが出来ました。時間があるときにはホストブラザーやホストシスターと遊ぶなど、コミュニケーションを多く取ることができ、たくさんの思い出をつくることができました。

後半の交換留学部分では、学部の授業が始まり 1 カ月が経ちますが、やはり想像通り授業についていくことが非常に難しく、授業の合間や放課後に図書館で勉強することが習慣となっています。学生のほとんどは勉強に対する意識が非常に高く、これまでの自身の勉強に対する意識を考えさせられ、日々良い影響を受けています。

スポーツクラブのほとんどが 9 月から再開され、私も現在テニスチームで週 2 日活動しています。私は長年テニスをしていたこともあり、テニスを通してもチームメイトに溶け込むことができていると感じています。

私よりも先に帰国した学生が多く、辛く苦しむ時期もありました。たとえ違う国であっても気持ちを理解しようと話を聞いてくれる友人、出かけようと誘ってくれる友人、本当に多くの方に支えられていることを常に実感しています。また、既に帰国した友人と、現在も連絡を頻繁に取り合っています。

日本とは違う多くの文化を学べたことも大きな財産ではありますが、これらの多くの友人に出会えたことがこの留学において一番の宝物だと感じています。語学力を更に上達させ、友人とカナダで再会するという新たな目標ができました。

留学をすることは非常に大きな挑戦であり、決して簡単なことではありませんが、必ず価値のあるものになると私は思っています。留学に行くか迷っている人は多くいると思いますが、まずは行動してみることをお勧めします。

ビクトリア大学（カナダ）
文学部　英米文学科　2 年
【交換留学】留学期間：2023年8月～2024年4月

プログラムの最初の語学学校での 3 週間は、午前中は朝 8 時 30 分から 12 時 20 分まで 20 分間休憩を挟んでの授業だったため結構ハードでした。しかし、午後からは自由時間でほぼ毎日イベントがあったため、退屈する事はほとんどなかったです。みんなで色々なところに行って、ビクトリアの観光ツアーのような感じでした。94 パーセントが日本人のため、英語を話す環境を作ることが出来るかどうかは本当に運と自分次第だなと思います。

大学の最初のセメスターが始まって 3 週間程たったのですが、もうすでにテストやアサインメントがたくさんあり忙しいです。授業以外にたくさんイベントもあり、色々な教室も開かれているため楽しめると思います。ただイベントが多すぎ、最初は全部に参加しようと意気込んでいたのですが、それが逆に重荷になって途中疲れて体調を崩してしまいました。3 日ほどクラスター（寮）から出ずに寝ていたり休んでいたりする時期があったので、あまり気負い過ぎずになんとなく楽しむ方が良いのかなと思います。クラスターにはルームメイトが 3 人いますがここでは授業第一で皆すごく忙しいため中々揃って遊んだりご飯を食べたりする機会は無いですが、仲良くやっていけています。またテストなどが落ち着いたらみんなでムービーナイトやインターナショナルディナーday なども計画しています。私の普段の生活としては、授業とヨガ、メディテーション、ジムのスケジュールを作ってそれ以外の時間は友達と遊んだり、課題、予習復習をしたりする時間にあてています。もう少し慣れてきちんとしたルーティーンとスケジュールが出来たら、クラブに参加してみようかなと思っています。

留学生にむけたオリエンテーションなども沢山あったのですが、出会った人がほとんどみんな結構年上でビクトリアに数年住んでいる人達だったので同世代の友達は外で作るか授業で作りました。オンキャンパスに住んでいる人もいれば、オフキャンパスに住んでいる人もいるし、取っている授業もバラバラなのでずっと一緒にいる友達というよりはその場その場で一緒に過ごす友達の方が多いと思います。クラスターはミールプランが無く、自分で料理しなければならないのでスーパーに行って食材を買ったりする経験が出来るのは楽しいです。日本とは景色も文化も人も、全然違ってただ歩いているだけでもいい経験だなと思います。

ビクトリア大学（カナダ）
文学部　英米文学科　2 年
【交換留学】留学期間：2023年8月～2024年4月

私にとって、全ての出来事がとても新鮮で刺激的で、今までに経験したことのないことで日々、溢れています。毎日、カナダでの生活を目一杯、楽しんでいます！新たなことに挑戦することは、私をより活発にさせてくれます。

私の留学生活が開始した月は、8 月でした。初めての一人での海外渡航だったので、不安でドキドキしていましたが、同時に、新たな生活が始まると考えると、とてもワクワクしたことを覚えています。最終目的地のビクトリア国際空港に到着した時は、私のホストファミリーが温かく私を出迎えてくれました。8 月は大学の寮に滞在し、ビクトリア大学附属語学学校で、英語のウォーミングアップのコースがありました。アットホームな授業スタイルで、私がカナダでスムーズに適応できるようにサポートしてくれました。9 月になりホストファミリーと再会し、その時から生活を共に送っています。私のホストファミリーは、優しい人たちです。9 月は私にとって、大きな転換期になりました。より多くの国から、留学生がビクトリア大学に到着し、よりキャンパスが賑やかになりました。一つの場所で、色々な国の文化に触れ合うことは、とても貴重な経験です。そして大学での学習が始まり、全てのビクトリア大学生が、長い夏休みからキャンパスに帰ってきました。毎日、タスクに追われていますが、週末にはホストファミリーとアクティビティをしたり友達と遊んだりして、勉強からリフレッシュする時間を作り、勉強のオンとオフを上手くコントロールしています。

私が滞在している都市ビクトリアの気候は比較的温暖で過ごしやすいですが、最近の朝と夜の気温は、お昼の気温と比べてひんやりするので、服選びが難しいです。ビクトリアの 8 月と 9 月は、ブラックベリーの収穫時期だったので、沢山の場所でブラックベリーを目にしました。ブラックベリーの実は自由に摘み取ってもいいので、私はよく学校からの帰り道に実を取りました。10 月になり、最初の定期試験が各授業で実施されています。それに向けて日々、復習しています。私のカナダでの留学がより素晴らしいものになるように、新たなことに挑戦し、自分自身を成長させます！

ビクトリア大学（カナダ）
マネジメント創造学部　マネジメント創造学科　3 年
【交換留学】留学期間：2023年8月～2024年4月

「大学生の間に長期留学をしたい」という思いは、入学前からありました。私は高校 2 年生の頃、短期留学でハワイに 1 か月ほど留学をしました。その頃の私は、語学力が皆無で授業についていくどころか友達との会話にも入れず気づけば 1 か月が経ち日本に帰国していました。その悔しさをバネに大学生活では英語を積極的に勉強しました。私は将来日本のみならず海外で働くことも視野に入れており、留学に行くことが一番の近道だと考えビクトリア大学に留学することを決断しました。

そして、8 月からついに留学生活が始まりました。最初の 3 週間は大学内の語学学校で基礎的な内容を勉強しました。友達もたくさんできましたが、短期留学の学生がとても多く 9 月になるとほとんどが帰ってしまいました。しかし、9 月から大学の授業が始まると、同じ寮に住んでいる学生や同じ授業を取っている学生と仲良くなることができました。まだ現地の大学生の会話についていくのはとても大変ですが、皆さんとてもやさしく接してくれます。そのおかげで会話のスピードにも徐々に慣れ、少しずつ成長しているのが感じられます。

しかし、いいことだけが起こらないのが留学です。私はカルチャーショックやホームシックを時々感じます。例えば、日本では当たり前のように食べていた白ご飯がなくて最初のほうは栄養を考えた食事をとることができず、少し体調を崩したりする期間もありました。ほかにも、少し自分に嫌なことがあったときはホームシックになることがあります。しかし、このような出来事が自分を強くしてくれます。今までは、人に助けてもらっていたことも自分で解決することができるようになりました。

ビクトリアに来てまだ 2 か月しか経っていませんが、苦しいこともたくさんあります。ですが友達と週末出かけたりすることが今はとても楽しいです。苦しいことがたくさん起こる一方、将来に必ずつながる経験の一部と捉え、毎日頑張っています。まだ半年以上ありますが、まだまだ授業にもついていけていない部分があり、積極的に行動できていない自分がいるので、毎月小さな目標を立てて暮らしています。これからたくさん大変な経験があると思いますが、必死に食らいついていきたいと思います。

カールトン大学（カナダ）
文学部　社会学科　2 年
【交換留学】留学期間：2023年9月～2024年4月

カナダに来てから 1 か月が経ちました。最初の 2 週間は朝夜の冷え込みやアジア人が少ない場所というのもあり環境に慣れるのに苦労しました。また Wi-Fi や e-sim の接続トラブルや部屋のドアのシステム故障で、ハプニングだらけでした。寮の部屋には机とベッド（マットレスのみ）しかないので、アマゾンで注文したり近くにあるショッピングセンターで足りないものを買ったりしました。ここに来て驚いたことは、想像以上にキャッシュレス社会だったことです。自動販売機は小銭を入れる場所がなく、クレジットカードしか対応していませんでした。ですから、空港で用意したカナダドルは大学の友人と割り勘をする時に使っています。現地の人は知らない人にでもフレンドリーで思いやりのある人が多いです。建物に入る時に他にも入ろうとしている人がいたらその人が入るまでドアを開けて待ってくれます。特に何もしていなくても誰かしら声をかけてくれます。ご飯を食べていたら声をかけてくれたり、エレベーターで世間話をしたりなど、特定のコミュニティに縛られていないところが日本と違うなと思いました。

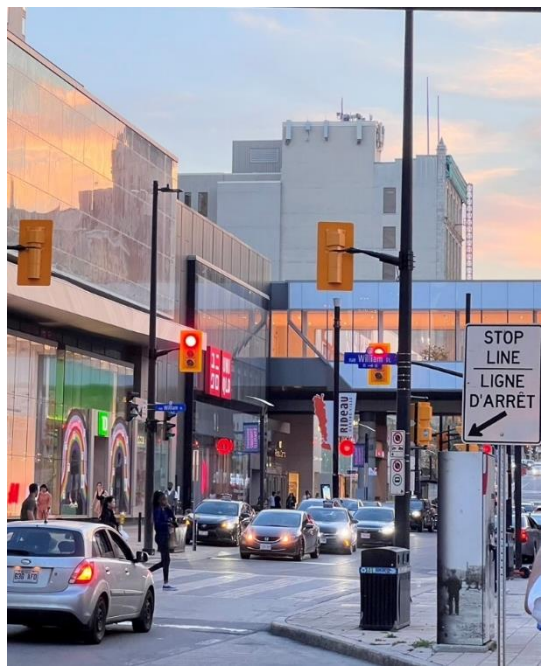
最近は日本語会話ボランティアで日本語指導やアウトドアクラブのイベントなどに参加しており、授業終わりや休みの日を有効活用しています。授業に関しては、予習と復習がないとかなりきついです。かなりアカデミックな単語が多く出てくるので事前に調べて講義で内容を理解することに集中するように必ず準備しています。課題も難しく多いので、こちらの大学生は、平日はひたすら勉強漬けで週末はパーティーで踊りまくるというような感じで、メリハリをきちんとつけて生活しているように見えます。学校の周辺は、川やキャンプ場などがあり自然豊かな環境で比較的安全な場所ですが、バスで 30 分程のオタワの中心部に行くとホームレスや薬物中毒者でいっぱいです。ある日バス停でバスを待っていると目を合わせてしまった薬物中毒者に絡まれてかなりショッキングな体験をしたので、必ず複数人で外出し、特に夜中の人の少ない時間帯は出歩かないようにしています。

このような感じで色々と濃い 1 か月でした。これからも引き続き勉学に励み、様々なクラブ・ボランティア活動に参加していきたいです。

カールトン大学（カナダ）
経済学部　経済学科　3 年
【交換留学】留学期間：2023年9月～2024年4月

カナダに到着してから約 1 か月が経過しました。1 か月たっても、こちらの生活は新しいことばかりで刺激的な日々を送れています。私がいるオタワはカナダの首都であり、歴史的建造物や美術館、博物館などが点在し、少し移動すれば豊かな自然に触れることが出来る非常に美しい都市です。昼夜の寒暖差が激しく、早くも冬がすぐそこまで来ている気がしています。人々もとても優しく、ほとんどの所で知らない人でもドアを開けて待ってくれることにはとても衝撃を受けました。

授業は、ESLA という英語の科目と経済の授業を受けています。英語の科目ではスピーキング力、経済の授業ではアカデミックな単語力が自分の課題であると感じ、その克服に注力しています。授業では、積極的に発言する学生が多く、日本とは異なった面であると感じます。分からない所を分からないままにしない事を意識し、日々の学習に取り組んでいます。また、10 月半ばには中間テストが控えているので、現地の学生に負けないように全力で取り組んでいきます。



日々の生活は寮で暮らしています。自炊をしており、大変ですがキッチンでのルームメイトとの会話が増え楽しい時間となっています。特別ルールを決めているわけではないですが、全員がキレイに共有スペースを使っていて、とても快適に過ごせています。寮から毎日リスが見られることには慣れてきましたが、ルームメイトが牛乳をビニール袋で保存していることにはいまだに慣れることが出来ていません（オタワでは普通のことのようです)。

ダウンタウンのほうに出てみると、いろいろな国のレストランから、見慣れた UNIQLO まで、多種多様な店を見ることが出来ます。それらの店を見て回るのはとても面白いです。見て回るのは面白いですが、買うとなるとまた別の話です。カナダに来て驚くこととして物価の高さがあります。外食をするとなると日本の倍ほどの金額が必要になってくる場合が多いです。ホームシックにはなりませんでしたが、1 杯 1,000 円でおいしく食べられるラーメンシックを今患っています。

この 1 か月で何かを学び取ったとはまだ言えませんが、自分の見聞は急激に広がっていると感じます。残りの 7 か月でも時間を無駄にすることなく、自分の世界を広げていきたいです。

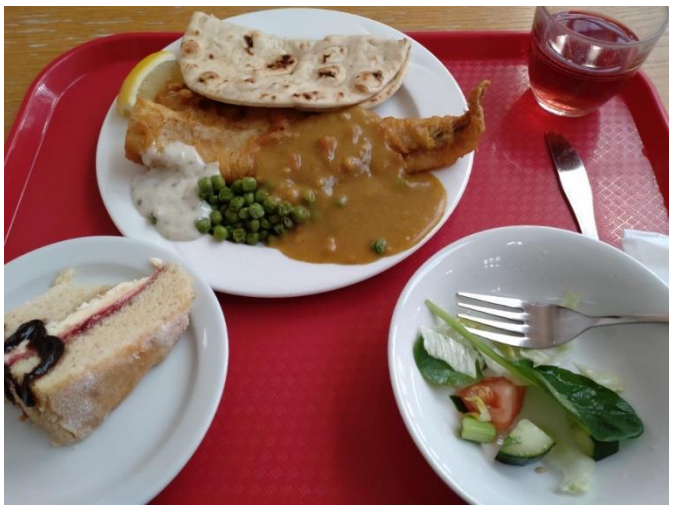
リーズ大学（イギリス）
マネジメント創造学部　マネジメント創造学科　3 年
【交換留学】留学期間：2023年9月～2024年1月

授業開始から 1 週間しか経っていない状況ですが、現在の状況を綴りたいと思います。

まず、現在は 9 月中旬からイントロダクションウィークといった大学生活に慣れるための週が終わり、10 月から授業が開始したという状況にあります。

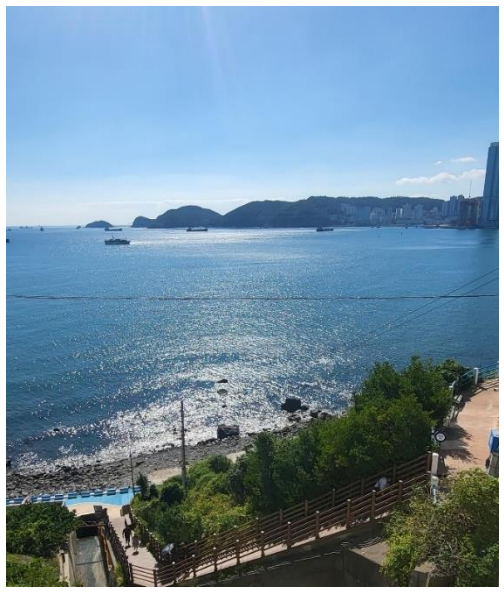
寮生活ですが、私はデヴォンシャーホールという歴史を感じられる、食事付きの寮に滞在しています。閑静な住宅街で近くに芝生のきれいな公園があるので鳥はもちろん、リスに遭遇することも日常的です。部屋で自主勉強するには適しています。しかし、最初生活面で苦戦したのは食事で、私にとって問題は「重い」ことでした。私はすべて配分を担当の方に任せると吐きそうになった経験から、体調と相談しながら「少なくしてほしい」「要らない」とはっきり伝えることが大事だと感じています。

次に学習面についてです。私の場合、授業は 3 つ取っています。授業はレクチャー、セミナーの 2 つの形式が設けられています。レクチャーは日本の講義形式の授業の認識で問題なく、大抵は普段のような予習さえしておけば（英語が聞きとれない場合もありますが）そこまで苦戦はしません。ですがセミナーではディスカッション中心になるため、いつもの予習に加えあらかじめどういうことが聞かれそうか、自分はその質問にどう答えるかをしっかり考えて喋る練習をしておく必要があるというのが授業 1 週間目を終えた感想です。



授業はさておき、この 1 週間で予習における時間の使い方について考えたことがあったので書いておきたいと思います。この 1 週間想定されていた/出されていた予習の中に 30 ページくらい教科書や本を読んでおくというものがありました。高校時代の経験から私は英文を読んでみてわからない単語を調べる、という作業を繰り返していましたが、やはりそれではまた理解に時間を割かなければならず、これまでのやり方が適していないことに気づきました。実際私は翻訳サイトを使うのは最後の手、頼っていれば英語が上達しないと思っていましたが、短い時間で理解、それを踏まえた発言、そして後々エッセイを書くには理解が最優先だと感じました。もちろん、英文そのものを読んでそこから語彙やアカデミックな表現を身に着けるステップは必要ですが、これからは翻訳サイトや Chat GPT を駆使することで、無駄な時間を少しでも他の人との交流などに割けるのではないかと考えています。

東義大学（韓国）
経営学部　経営学科　3 年
【交換留学】留学期間：2023年8月～2023年12月



釜山の東義大学で学び始めて 1 か月が過ぎました。初めての海外生活ですが、毎日の新しい経験や発見を楽しみながら、大きな不自由もなく生活を送ることができています。私は性格が活発な方ではないこともあり、留学を決めるのにも悩み時間がかかりましたが、今ではこの決断をしてよかったと強く思います。

基本的には、平日月曜日から金曜日まで朝 9 時から 12 時 50 分まで韓国語の語学授業があり、午後には専門授業などの他の授業もとることができます。ただかなりレベルが上がるので私は韓国語の授業だけ集中して、予習復習の時間をしっかりとれるようにしました。授業のクラスはクラス分けテストで 3 つに分けられ、一番上のクラスに入ることができたものの、文法は知っていても話せない、書けないということが私の課題でした。その中で、たまたまクラスに日本人が私だけなので、わからないところを先生はもちろん中国やミャンマー、フランスの友人たちが簡単な韓国語に言い換えたりしてくれて、親切に教えてくれます。まだまだ実力は足りないですが、授業を通してだんだん言葉が出てくるようになり、昨日より今日少しでもできたことが達成感となって頑張れています。

東義大学の良い点のひとつにバディ制度があり、留学生数人に一人現地の学生がバディとして留学生活をサポートしてくれます。手続きの手伝いや一緒に出掛けて食事や文化を教えてくださったりして、不自由なく過ごせているのもバディさんの影響が大きいです。寮は女子専用で、近くのフロアには留学生が集まっておりなかなか現地の学生と関わる機会がありません。そのためさらに様々なコミュニティに参加して、交流を増やしていきたいと思っています。

1 か月の間に悔しさや悩みも経験しましたが、日本人だけでなく他の国の子たちも親身に話を聞いてくれて乗り越えることができ、人の温かさをとても感じています。シャワールームなど皆で共同のものが多いため文化や考え方の違いを感じることも多いですが、それでもそれぞれが興味を持って受け入れ合っていて、相手のことを知ろうとする雰囲気があり、寮での生活は成長の良い機会になっています。残りの 3 か月弱も、出会いを大切にしながら、充実した日々を過ごせるように頑張ります。

東義大学（韓国）
経済学部　経済学科　4 年
【交換留学】留学期間：2023年2月～2023年12月

2 学期になり、私の留学生活もあと 1 ヶ月になりました。季節も完全に冬になり、韓国に来た頃と同じような寒さで、時間の流れをしみじみと感じています。

私は 2 学期の間、6 月から 11 月はとても忙しい日々を送っていました。理由は就職活動です。夏休みは日本に一時帰国して活動を続け、志望先の企業の面接があるたびに日本と韓国を行ったり来たり何度も往復していました。その中でも留学先の授業と、現地でできた友達との交流などに時間をフル活用して生活してきました。時にはネガティブな考えになることもあり、なんで自分は留学に来たのだろう、こんな忙しい留学生いるのか、などと考えることが何度もありました。でも、このような考えを何度も吹っ飛ばしてくれたきっかけがあります。それは「友達」です。韓国に来たときから交流があった友達は常に自分のことを応援してくれ、また時間があるたびに様々なお店や場所に連れて行ってくれました。現在では、時間があるとすぐ会い、ご飯やカフェにいくような友達です。

私はこのような経験から学んだことが 2 つあります。まず 1 つ目は諦めないことの大切さです。私は留学をしながら就活をしていたこともあり、辛いとき、挫折しそうなときが何度もありました。しかし、その中で最終的には目標を達成できたことから、諦めずに努力し続けることの大切さを再確認することができました。そして 2 つ目は人見知りや能力を恐れず、人と交流することです。この報告書を読んでくれている、これから留学に旅立つ人達に伝えたいことがあります。それは、とりあえず当たって砕けても良いので色んな人と会話をすることです。そこからかけがえのない友人ができることもあるし、もちろん言語能力だって伸びます。書き読みの勉強ももちろん重要ですが、人と話すことで一番言語能力が伸びたと間違いなく実感しています。最初は怖くて緊張することも人によってはあるかと思いますが、留学生活が充実するかどうかは本人次第で、そのための環境を作るか、作らないかも自分で決めることができると思います。是非、殻を破ってみてください。私は残り少ない 1 ヶ月の留学生活を、後悔が残らないように全力で楽しみたいと思います。